
異世界と不良高校生の一生

edenn

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界と不良高校生の一生

【Nコード】

N5419Y

【作者名】

eden n

【あらすじ】

高校生2年、彼は喧嘩ただ最強という名の力を求めて日々不良たちと戦い、そして勝利してきた
そんな彼が突如異世界へ紛れ込み、大瀬の人々と俺の運命を知る。

始まったぜこのやるつゝ

世界で最も人が幸せを感じる時ってどういう時か知ってる？

それが僕と彼女との最後の言葉になった。

16歳のまだまだ青二才の春、僕は彼女にそう聞かれ、恋人といるときかな？なんて言葉を

返してみたが、彼女は首左右へを降った。

その時の彼女の顔は今も鮮明に覚えている。

黄金色の麦のように暖かく、春の風のようにぬくもりを持った優しい微笑。

僕はその時、彼女が何を言ったのか思いだせない。

確かに僕の前で言葉を口にしたのだけれど、彼女の顔が笑があまりにも綺麗で

可愛くて、目を離すのも、もつたいないと思えたから。

だから彼女の言葉を意思を思いを、聞くことは出来なかった。

僕は彼女が好きだったから、彼女はどう思っているかはわからない。

けれど、僕は彼女が誰よりも、何よりも大切に、幼い頃から友達で幼馴染、小学校も中学校も一緒にいつても何をやる時も一緒に過ごしてきた。

だからこそ、僕は彼女を好きになったのだ。優しいところも寂しがりやのところも

正義感が強いところも、全部が好きで、僕にないものを彼女は持っている、

だから眩しかった。神々しかった。いつも彼女と目が合うと心臓が爆発しそうなくらい

暴れて頭をかき回す。でも僕は決してそれを表には出さない。言葉に出さない。

もしも出してしまえば、今までの関係が、彼女との会話が日常がどこかへ行ってしまう

かもしれないから……だから僕は彼女に思いを告げることはなかった。

彼女があの時何を言ったのか2年たった今でも思い出せなかった。彼女はあの言葉を口にしてその3日後に海岸沿いの崖からその身を投げ

広い海の中へその姿を消した。数ヶ月に渡る搜索も虚しく捜査は打ち切られた。

二年の月日は僕を大きく変えることとなる。

青年は雷雨の中、無数の男たちを足場に山積みにし、タバコを啜えながら

星ひとつ見えない雨の空を見上げ、喧嘩上等の刺繍をされた黒服を肩に羽織り

黄金色の髪を掻き上げながら声を上げた。

「あーん？」

「もう勘弁して下さい……竜仙りゅうせんの兄貴」

俺は地面に横たわる口元から血を流す同じ制服を着込んだ男たち

を眺めながら

カエルのようにその場から飛び降り、雨でぬかるんだ地面に着地。同時に足元で泥水が跳ね、ズボンにかかる。

「ああー悪い悪い、少し物思いにふけっちゃまったた」

「ひどいっすよ。兄貴の稽古に付き合わされたあげくに足で踏まれて泥まみれとか

本当酷過ぎるっすよ」

「だから、あやまつてるだろ？　そもそも雨が突然降ってくるから悪いんだよ

恨むならお天道様を恨むんだな」

「そんな無茶な……」

「てのは冗談だ、まあー誤ったんだから許してくれや」

俺はすかさず地面に倒れこむ無数の男たちに手を差し伸べて、立ち上がらせ

俺はすかさず、原チャに乗り込み、無数のステッカーの貼られたバイクの

エンジンを始動させた。荒々しいエンジン音が鳴り響き、雷音を一刻包みこむ。

数秒後、エンジンは完全にかかり、俺は一人の男を後ろへと呼んだ。

「茂、お前、今日は俺に付き合えよ」

それに、雨の中、泥一つ汚れ一つない黒い制服を着た男が傘をさしたま

拒否する。

「断る、雨に打たれるのは好きじゃない」

「あーあん？」

「がンを飛ばした瞬間、男の眼鏡の先から鬼のような殺気が溢れだし。それを感じた俺は一瞬体すくめる。しかし男の表情には変化はない。」

「ったく、さつさと乗れよ。二年前からつるんできた中じゃんかよ」「フン、そんなこと知ったものか」

「だから乗れ！」

「断る！」

あさみやしげる
浅深茂

それがこの男、成績優秀スポーツ万能、喧嘩百戦錬磨、完璧な男。

茂と出会ったのは彼女がいなくなって2ヶ月が立った頃、死人同然の目で

ヤクザもんと喧嘩、ボコられて全身傷だらけの時、路地裏で茂と出会った。

そして茂は俺に手を差し伸べてきてそれを最初は断ったがまもなくその手を取った。

それから2年、俺は強く誰をも守れる力を求めて不良になった。そして強くたくましく成長し、今に至る。

俺はバイクを走らせ、茂の横へ横付けすると、無理やり後ろへ乗せヘルメットをかぶらせる。

同時にエンジンをふかし、しばらくバイクを走らせた。

1時間ほど国道を走り、海岸線を進み。そして……

一つの墓標が立てられた崖の上についた。

その小さな墓標は木で作られており、それを作っただのは俺自身だ。

金があればもっと立派なものを作るけれど、今はしがない学生だ金なんて持ち合わせていない。

俺はバイクから降りると、その墓標の前に立った。

「美鈴、どこにいつちゃったんだよ」

胸の奥で靄がかかったように嫌な感じが溢れでてる。

それを見ていた茂が俺の頭上に傘をさした。

全身ずぶ濡れで傘なんて差しても意味ないのに茂は俺の上で傘をさした。俺は茂のその優しさにそのもやもやが消えて行くのを感じた。

「美鈴、こいつが前に言ってた俺のダチだ、美鈴にもあわせてやりたかったよ

こいつこつ見えても喧嘩めっちゃ強いんだぜ？　メガネなのにな」

「メガネが強さとなんの関係がある？」

「いやいや、メガネはあるだろ？　メガネかければ頭良くなったよ
うな感じになるし

運動できそうにないイメージもつく、やっぱりメガネはノビ太君を
連想させるからな」

「……バカが」

「ああ！　馬鹿って言ったな？　俺はこれでも国語20点数学20
点社会30点理科98点の

天才だぞ？」

「お前はやはりバカだな、特に何故理科を98点取れるのにほかな教科はすべて赤点なんだ？」

「少しはほかな教科に力をいれろ、このままだと大学入れなくなるぞ」

「ばーか、俺は宝くじ当てて一発逆転狙うから勉強しなくてもいいし大学はいらなくてもいいの」

「それに理科は好きだから本を丸暗記しただけで後の教科は嫌いなだけだ」

「それをバカだと言うんだよ、宝くじが当たる確率って知ってるか？」

「1等で言うと0.00001%だぞ？ その中にどうやってお前が入る余地があるんだ？」

「もう少し計画的に人生組み立てろよ」

「うるせーうるせーハエみたいにブンブンとお前は俺の保護者かつっうーの」

「否、僕は君の指導係だ」

「いつからそんなふうな設定になったんだよ！」

「お前が生まれる前からだ」

「いや、なに勝手に俺はお前よりも年上で俺の生まれる前から生きてました」

「みたいな発言してるわけ？ 俺とお前タメじゃん」

「否、知能レベルからしてお前と僕とでは半世紀ほど差がある。」

「だから世間でタメと呼ばれる年齢であるうとも僕はお前をタメだとは思わない。」

「以上僕の説明終わり」

「舐めんとんのか〜！ おどれは〜！」

それに茂は頷き無表情のまま立ち尽くす。

「くそ！ 見てろよ！ ぜってえー見返してやるからな」

「期待せずに待つとくよ、それはさて置き、そろそろ戻ろう」

「ああ、むかつくけど雨がかなり降り始めてきた戻るか」

「ああ」

その時だった。

背中に強風が吹き抜け、俺は体は勢い良く崖下へ向かって制御ができなくなった。

足元に地面がなくなった瞬間、俺は咄嗟に崖の壁にしがみつき耐える。

同時に上から茂の黒髪とメガネが映りこみ、手を差し伸べてくる。

「大丈夫か？」

「ああ、なんとかな」

「よし、引き上げるぞ」

「おう」

その時だった……

茂に突風が吹き抜け、同時に二人が海へと落下した。

全身に海の冷たい冷気が触れ、深海の彼方へと俺は沈んでいく。

そこで俺は意識を完全に失った。

その意識が暗闇から浮上するのにそんなに時間はかからなかった。視界に太陽光のような暖かな光を浴び、俺は思わず目を覚ましたのだ。

すぐに当たりを見渡すと、俺は大きな平原の中、茂と共に倒れ込んでいた。

しかし明らかに知らない大地、第一に空には鳥ではなく化物が飛び交い

地上では牛だからトカゲだかわからない地球外生物が存在している。

俺はその瞬間、夢であると思い、再び目を深く閉じた。
そして目覚める。

しかし風景は変わらない。

俺はその瞬間、この世界が元のいた世界とは別の世界だと知った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5419y/>

異世界と不良高校生の一生

2011年11月16日03時22分発行